



さいたまユースサポートネット
学習支援事業運営責任者

金子 由美子

かねこ ゆみこ 思春期の子どもたちのこころとからだの成長をサポートし、不安や悩みへのアドバイスをしています。子どもにかかわっていると、エネルギーを充電してもらえるみたいに元気になります。

“生きづらさ”を抱えた子どもたち

昨年度からこの連載で、私が勤務するNPO法人「さいたまユースサポートネット」での出来事を何度か書かせていただきました。そのこともあってか、講演会や研修会でお会いする方々に「どんな子が来ているのですか?」「その子たちは学校に行っているのですか?」といった質問をよく受けるようになりました。

生活困窮者学習支援事業として

「さいたまユースサポートネット」の学習支援教室は、生活困窮者自立支援法に基づき、さいたま市から生活困窮者学習支援事業の委託を受けています。

生活困窮者自立支援法は平成二五年一二月に成立しました。近年の社会経済環境の変化に伴う生活困窮者や稼働年齢層を含む生活保護受給者の増大に対して、「国民の生活を重層的に支えるセーフティネットの構築が必要」ということで制定された法律です。この法律に基づく生活困窮者自立支援制度では、福祉事務所設

置自治体が実施主体となって、自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業などとともに、子どもの学習支援事業が実施されることになっていっています。

こうした事業の実施は自治体直営のほか、社会福祉協議会や社会福祉法人、NPO等への委託も可能とされています。費用は、学習支援事業とその他生活困窮者の自立の促進に必要な事業は、二分の一が国庫補助で行われています。

生活困窮者学習支援事業の対象となる子どもたちの枠組みは、自治体によってさまざまです。さいたま市は、生活保護世帯の中学・高校生、児童扶養手当全額支給世帯の中学生が対象です。

そうした家庭の子どもたちには、「自分は(勉強しなくて)いい」「勉強のやり方がわからない」という消極的な反応が見られることも少なくありません。さらに、支援対象の割合は、「学校に行くことができない」「学校には行っているが、教室に入れ

ない」という不登校傾向にあります。私たちの学習支援教室に通ってくるようになった生徒にも、「字ぶ意欲が低い」という共通した傾向がみられます。

生き方のロールモデル探し

私は一々の学習支援教室の運営責任者として、午後六時にたびたび教室に見回りに行きます。C教室にはやんちゃ系の中学生が多く、先週には器物破損事故があったこともあり、頻繁に通っています。すっかり顔見知りになった中学一年生のタッキー(仮名)が、駆け寄ってきました。

タッキー「カネティー、なんだか、お母さんに、『よろしくって言え』って言われた」

私「そう、伝言ありがとう。姉ちゃん、大学受験に行ったのかなあ」
タッキー「うん、おねえはオレと違って頭いいから。おねえが小学生の頃はうちも金持ちだったらしいから、塾に行ってたらしい」
私「タッキーも、今は自分の意思でこ

基礎学力は 子どものセーフティネット

こに來ているじゃん。まだ、あんまり、勉強には集中できてないみたいだけどねっ」

タッキー「オレは、大学生（ボランティア）につきあつてあげてんだ。新米ボラは、オレが來ないと寂しいって言うから」

私「そうね。タッキーはムードメーカーだものね。ボランティアの皆さんに、教室の一人ひとりの紹介をしてくれたり、新人ボランティアさんに頼りにされているよね」

タッキー「それくらいしなきゃ。カネティーには迷惑かけてるし、反省を態度で表すつてやつですわね」

私「この教室のドアを蹴つて壊したことね。反省文はすぐよく書いてたよ。漢字も増えたし、いろんな言葉を使えるようになったよね。私には、タッキーが着実に大人への階段上つているのが見えるよ」

タッキー「それ、幻想でしょ。だつてオレ、今日ここまでエレベーターで来たし（笑い）」

私「その調子で、どんどん階段上つ

て、中学校にも行かれるようになるといいね」

タッキー「うん、ここに来てから九がわかるようになったし、数学も大丈夫な気がする。英語は教室に行つているケンタより、オレのほうができるし」

私「高校生になつても、ずっと続けてここにおいでよ。大学進学も夢じゃないし。あこがれている大学生がいるんだつて？」

タッキー「うん、山里さん。オレん家と同じ、母子家庭なんだつて。お母さんに楽をさせたいから卒業したら学校の先生になるんだつて。オレは学校は苦手だから先生は無理だけど、山里さんに旅行会社の英語の通訳とかに向いてるつて言われた。やつてみたいなあ」

生きる意欲につながる基礎学力を

教室に來て「ほんものの大学生を初めて見た」と目を輝かせる子どもにとつて、学習支援をするボランティアの大学生は、等身大のロールモ

デルとなり、将来への夢を具体化する確かな存在となり得ています。

教室に來たことによる、わが子の学習意欲や成績の向上は、送り出してくださる保護者の気持ちにも変化をもたらし、兄弟姉妹への教室参加の促しにもつながっています。教室への信頼感は広がりがつあり、子育てに関する悩みや奨学金の相談も増えてきています。前述のタッキーの母親も、姉の大学受験の費用について「ここが一番頼りになる」と相談先に選んでくれたのでした。

基礎学力は子どものセーフティネットです。私は、平成二九年度の学習支援業務の目標を次のように掲げました。

〈対象生徒の基礎学力を保障し、將來への展望を持たせ、社会への参加を促す学習支援教室にします〉

困難が重なつている子どものケースに同じ、さまざまな人たちと連携しながら、子どもを中心にしたセーフティネットを構築していきたいと思つています。